

2017年3月期第3四半期 決算説明会 Q&A サマリ

2017年2月8日時点

【FY16 3Q業績について】

Q 市場環境の変化について確認したい。

A OPECの減産合意に伴い、原油価格が底堅く推移し、一部のお客様には投資再開の動きも出始めるなど、明るい兆しも見え始めてきた。これは大きな変化と捉えている。ただし、全体的にそういう動きが加速しているという雰囲気ではなく、投資抑制を継続しリストラを進めているお客様もいるため、まだら模様の状況である。原油価格がある程度安定し、投資回復に向かっていく局面には、まだしばらく時間がかかると見ている。

Q 3Qでの制御事業の受注に関して、国内と海外の状況についてはどうだったか？

A 国内については、一部のJOBで粗利の厳しいものもあったが、受注はほぼ想定範囲内であった。海外については、業種ではダウンストリームが、地域ではアメリカを中心として全体的に前年比で受注が減少したが、四半期単位での比較では大口JOBの入り方にも左右されるため、受注状況は通期で捉えてほしい。

Q 3Qの国内制御の営業利益が悪化した、何か変化が起きているのか？

A 1Q、2Qとの比較で粗利の厳しいものが売上がったものであり、トレンドに変化があるとか、何か問題があったということではない。

Q 北米の大口プロジェクト案件がEPCの業績に影響を及ぼしているなかで、御社への影響はあるか？

A 北米の大口プロジェクト案件については、我々の業務の範囲内においてほぼ終了段階にあり、影響はない。

【FY16 年間業績予想について】

Q 4Qにおける海外制御の受注の確からしさについて確認したい。

A 4Qにおける海外制御の受注については、今抱えている受注案件を精査した上で見通しを立てており、十分達成可能な範囲にあると考えている。受注案件としてはそれなりの候補が蓄積できている。

Q 4Qの売上の達成見込みについて確認したい。

A 4Qの売上については、4Q売上予定の受注残をある程度確保できており、十分達成可能と考えている。

Q 営業利益の増減要因から逆算すると、4Qで増収による粗利増が50億円必要となるが、達成可能か？

A ある程度の手応えはある。もちろん、3月末までに受注・売上が間に合うか、競合との関係で予定通り受注できるか、来年度にずれ込まないかなどリスクはある。年度末に向けて受注・売上也対前年に比べ大きく成長する数字としており、受注残の状況や足元の状況を踏まえ、今回、数字を修正していない。売上高については、若干の未達リスクを抱えているが、目標達成に向け活動していく。

Q 原油価格が回復し、受注環境が戻ってくる時期はいつごろと見ているか？

A 現時点では、さまざまな見方があり、回復時期を見通すのは難しい。ベストシナリオで言えば、かなり早い段階でエネルギー関連の投資が再開され、受注の風向きが 2017 年中にある程度変わることもあり得るのではないかと考える。早期に受注環境が回復しないとしても、コストダウンや収益性の高い分野にリソースをシフトするなど、さまざまな対策を講じて利益確保に努めていく。

【中期経営計画の進捗について】

Q コストダウンの現状と FY17 単年度目標 100 億円の達成見込みについて確認したい。

A 今年度については、当初予定通り達成できると考えている。来年度については、厳しいターゲットであるが、達成させなければならぬ。売上や物量の増加によるものが含まれることから、売上が低迷した場合に未達のリスクがある。

現在、集中購買の加速や、全社のペーパーレスによる業務の効率化の実施などさまざまな施策を展開しており、効果が出始めている。こういった施策を積み上げ、さらに加速していく。

Q 中期経営計画達成に向けた状況について確認したい。

A 原油価格の長期低迷やお客様の投資減少など、中期経営計画策定時とは外部環境が大きく変化し、受注・売上といったトップラインが厳しくなってきたのは事実だが、収益性、効率性改善の指標達成に向けチャレンジしている最中である。中期経営計画の中で我々が最も注力しているのは収益性を高めるということであり、引き続き、コストダウンを進めることや、より収益性の高い領域へリソースをシフトしていくことに注力していく。

(注) 本資料で提供する情報のうち業績見通し及び事業計画等に関するものは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいています。従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。なお、内容につきましては、理解し易いように部分的に加筆・修正しています。